

本日は我が国の天皇誕生日レセプションによるこそお越しくございました。  
このように大勢の方々にお集まり頂き、誠にありがとうございます。

## 1. 活発なハイレベル交流

1年前、マッキー・サル大統領が訪日しました。岸田総理との首脳会談の後に両国は共同コミュニケを発表し、両国関係を経済協力のみならず、ビジネス、科学技術、人的交流の幅広い分野で包括的に進める決意を表明しました。

大統領の訪日以後も両国間のハイレベルの交流が続いています。

日本からは、昨年11月堀井外務副大臣が来訪し、ダカールフォーラムに参加した他、サル大統領や外務大臣、国防大臣他と会談を行いました。

セネガルからは、1月初めにウンジャイ・セネガルオリンピック委員会委員長が訪日し、2026年のセネガル・ユースオリンピックに向けた協力を話し合いました。10日ほど前にはここにおられるカー経済大臣が訪日し、日本の各界の要人と二国間の経済関係の強化に向けて有意義な意見交換をおこないました。

## 2. 経済関係の拡大

このようなハイレベル交流の後押しを受けて両国間の経済関係は活発に動いています。

経済協力の分野では、マメルの淡水化事業計画が2025年の完工を目指して進められています。現在、同計画を拡張するフェーズ2案件の準備調査も進められ、本年中の署名を目指しています。また、2021年に署名されたセネガル川流域での灌漑事業の大規模拡張計画も今年から工事が始まります。日本の支援により木製ピロッグのグラスファイバー製のピロッグ船への代替も始まります。更には、カザマンス地方への支援として、最新技術を使った燻製工場の建設や残置地雷の除去に対する協力が検討されています。このように、日本は、保健や教育等の伝統的な分野への協力だけでなく、基礎インフラや安全保障の分野での協力も推進してセネガルの発展に貢献していきます。

ビジネス分野では、カゴメ社のセネガル川流域でのトマト生産が本格化し、また、三井海洋開発が建造したFPSO船が現在セネガルに向けて航行しています。

日本とセネガルは、JCMという温暖化対策のためのクレジットの交換制度で合意しており、その枠組みに支えられていくつかの日本企業が太陽光発電等の再生利用可能エネルギーを利用したプロジェクトの検討を進めています。今年はそうした案件が正式に合意され、両国が地球規模課題に具体的に取り組んでいくことを期待しています。

2025年には日本の大阪で万博が開催され、セネガルはアフリカ諸国では数少ない独立パビリオンを運営します。昨年11月にはチャムASEPEX総裁が訪日し、セネガルの万博参加への準備を進めました。同じ年に日本でTICADが開催されますので、訪日したアフリカの首脳達は大阪・関西万博でセネガルのパビリオンを見ることになるでしょう。

### 3. 人と人とのつながりの強化に向けて

二国間関係の基盤は人の絆です。

セネガル各地で16名のJICAの専門家が、更に24名のJOCVが活動しています。JOCVは村々に入って村人達と生活を共にしながら、技術を伝えています。

本使は昨年8月にセネガル日本職業訓練センター（CFPT）への機材引渡式に参加し、11月には国立保健医療・社会開発学校（ENDSS）母子保健実習センター建設の完工式に出席し、大歓迎を受けました。

JICA専門家やJOCVの活躍、また、【本年40周年を迎える】CFPTや【20年以上にわたり協力関係にある】ENDSS等のセネガルを代表する職業訓練施設への協力は日本の経済協力の典型です。

日本は大した天然資源を持ちませんが、人的資源を最大限活用して経済発展を成し遂げました。天然資源を持たない多くのアフリカ諸国にとって人的資源で国を発展させた日本は発展のモデルになるでしょう。2022年のTICADにおいても、日本はアフリカと「友に成長するパートナー」として、人材育成を重視する姿勢を表明しました。

人と人とのつながりは援助分野にとどまりません。

昨年6月、ダカールにおいて初めての本格的な日本の漫画・アニメ・フェスティバルが開催され、1000人を超えるセネガルの若者が集まりました。日本は遠く離れたアジアの国ですが、多くのセネガルの若者が日本に強い関心を持っています。日本のことを知りたい、日本に行きたいという若者達の希望に応じてあげたいと思いました。

そのような思いから、昨年、ダカールの高等経営学アフリカセンタ（CESAG）において、日本語学習のコースの立ち上げを支援しました。現在80人のセネガル人が日本語の授業を受けています。このコースに800人の応募がありましたので、大使館としては可能であれば更に日本語教育を拡大していく考えです。

昨年は、セネガル人にレスリングを教えている日本の若者（魚住さん）に、この場でセネガル相撲のパフォーマンスをして頂きました。今年は、この後、日本人ダンサー（鎌田さん）にサバールダンスを踊って頂きます。彼女はサバールダンスに憧れ、単身でセネガルに来てダンスをマスターしました。本場でサバールダンスを踊る日本人としてBBCでも特集されたこともあります。

彼らや若いJOCVの方々を見ていると、日本とセネガル関係の将来に希望が持てます。若い力が二国間関係を強く動かす原動力となっています。

セネガルはこれから大きく発展していくでしょう。そしてそのセネガルの発展を日本は友人として側で支えて行きます。

「セネガル、日本、ともに歩もう」